平成２５年３月１０日
パリ産業情報センター
舛田　崇

一般調査報告書

フランスの新エネ関連展示会「EnR 2013」出展報告

EnR2013 展示会場

パリ産業情報センターはこれまで、欧州における様々な展示会について、展示会ビジネスそのものを含むいろいろな観点からレポートをしてきました。

そこで、今回は「環境首都あいち」の実現のため、様々な取組を実施する本県をＰＲすべく、2 月 19 日から 22 日までの間、リヨンで開催された「EnR2013」において、愛知県ブースを設置し、本県の環境に関する取組や、本県への投資の魅力に関する PR を実施しました。

今回の展示会は、フランス最大級の新エネルギー関連の展示会「EnR」を始め、木材関連事業や省エネ用建設資材関連事業など、6 分野の合同展示会（合同展示会名は「BE+ 2013」）となっており、欧州を中心とした 15 カ国から約 1000 事業者の出展、期間中に約 6 万人のビジターが来訪するものです。

今回は、欧州での展示会に実際に出展した場合のサービスのほか、実際に出展した視点における「新エネルギー関連展示会」について報告します。

〈出展スペースとセミナーが基本の展示会出展パッケージ〉

これまでパリ産業情報センターは自動車部品関連のほか、機械部品関連、医療・福祉関連などのさまざまな展示会において、対日投資に関心のある出展者に対し、本県の魅力を PR するとともに、本県への投資に関する情報提供を行いつつ、企業誘致活動を実施してきました。

その中でも、新エネルギー関連分野の展示会における出展企業の反応はとても高く、現状において日本における原子力発電所の殆どが稼働していないことや、夏のピーク時における電力の節約の状況、日本国内における新エネルギープラントの建設ブーム、電力の固定価格買取制度を説明すると、殆ど全ての出展企業から詳細な説明資料を求められる状況でした。そのうちの数社においては実際に日本への進出を決定したところもあります。

折しも、本県はこれまでいくつものメガソーラープラントのプロジェクトが発表されているほか、環境分野において本県独自の先駆的な取組を実施していることから、その PR を併せ、新エネルギー分野での展示会において、愛知県ブースを設置することを決定したところです。

出展する新エネ系展示会については、フランスにおける最大級の新エネ系展示会であることや、他の展示会との合同展示会もあることから、PR の相乗効果を狙い、今回の EnR2013 への出展を決定しました。

主催者である GL Event 社（以下「GL 社」と記載。）に出展の交渉をしたのですが、出展場所や出展料金についておよそ 2 カ月を費やした結果、実際の出展料は当初の半額となり、欧州展示会における高額な出展料を免れることができました。また、場所も会場中央の三方路に面した 10 ㎡（展示会における最小面積）のスペースとなり、とても目立つ所に出展ができたところです。交渉により出展料金が下がるケースがあるということが判明したことから、県内企業の皆様も、欧州での展示会に出展する際には「交渉次第での出展料の値下げ」も是非トライしていただければと思います。

さらに驚いたことに、今回の出展でのいわゆる「基本パッケージ」は、出展スペースやそこでの机、椅子等の備品・看板、出展者ガイドでの記事掲載等のほか、セミナースペースでの「セミナー開催権」が含まれていました。これは欧州における展示会では珍しくなく、他分野での展示会でもこのようなパッケージがされているところがよくあります。展示会出展企業はこのセミナーの招待状を送付し、更なる商談の機会を得ることが出来ますし、セミナーを通じて、出席者に企業 PR を実施できるほか、更なる商談の可能性が生まれることとなります。セミナーは 45 分間と決められており、その模様は展示会の WEB 上でのインターネット TV により配信されていました。

今回のセミナースペースでのプレゼンテーションは、本県の環境に関する先駆的な取組を PR するうえでも絶好のチャンスと考え、数あるスペースの中で一番目立つ、会場中央のセミナースペースでの時間枠をいただいたところです。

〈環境分野への関心と期待…ゲストと来場者〉

重要な展示会には要人が来場されることが多いですが、今回のリヨンでの展示会の初日には、フランスの環境・持続可能開発・エネルギー省のデルフィーヌ・バトー大臣が来訪し、環境関連分野の出展企業に対する期待が寄せられました。

ﾃﾞﾙﾌｨｰﾇ・ﾊﾞﾄｰ環境･持続可能開発・エネルギー大臣

現状では、欧州での新エネルギー関連企業はここ数年中国製品に押され、世界 1 位であったドイツの Q セルズを始め、相当数の企業が倒産、撤退している状況にあります。

ドイツにおいては、昨年電力の買取価格を大幅に引き下げており、欧州での新エネルギー市場はかなり鈍化している状況ですが、フランス政府は自国の製品による電力買取を優遇する政策を発表しており、自国製品を守ることに躍起になっています。大臣のスピーチにおいても、新エネルギー関連の技術開発の更なる発展を期待するとのコメントが寄せられましたが、同時に大臣は電力消費自体の低減策も促進しており、企業に対する具体的な奨励策についての言及はなく、少し残念に感じました。

なお大臣は、同行していたアフリカ・マリの環境大臣と共に、会場を見学した後に帰ら

れたのですが、本県出展ブース前を通ったにもかかわらず、お声掛けをすることができず、出展における千載一遇のチャンスを逃してしまい、とても残念な思いをしたところです。

また、この展示期間中の 1 日だけは、夜の 10 時 30 分までの長時間にわたり開催されました。これはビジネスマッチングの目的ではなく、広く一般の方々に対し、環境関連の取組を PR するための展示時間となっています。来場者は家族連れが多く、環境に関する高度な技術が見られるチャンスであることから、夜遅くまで来場者の列が途切れることはありませんでした。

本県ブースにおいても、環境に関する取組に興味を持たれた方が数多く来訪し、日本の電力供給状況に関する質問が数多く寄せられたほか、住宅用太陽光発電や燃料電池自動車に関する質問があったところです。

〈愛知県出展ブースでの PR 活動〉

今回の展示会に際しては、環境に関する取組の PR ポスターとして、県内に所在する新エネルギープラントを紹介するものと、「あいち臨空新エネルギー実証研究エリア」とあいち産業科学技術総合センターの「燃料電池トライアルコア」における取組事例を紹介するものを作成しました。

愛知県ブースでのフランス企業との商談

近年県内では 50MW を超えるメガワットソーラープラントの建設が相次いで発表されるだけでなく、他地域でも頻繁に大小のソーラープラントの建設が発表されていることから、欧州企業への抜群の PR 効果をもたらします。さらに、日本での現在の電力買取価格は太陽光で 42 円/kw（約 35 セント）であり、フランス（8,9 セント）のおよそ 4 倍となっていることから、これも企業の日本進出を促すこととなります。風力及び太陽光発電関連の企業との面談では、殆ど全ての会社から本県及び新エネルギー市場における深い関心を持っていただき、詳細なデータの提供を求められることとなりました。

また、新エネ実証研究エリアでの実証実験についても、多数の企業及び一般の方に深い関心が寄せられており、実証実験、特に「バイオマス利用スターリングエンジン発電」に関する詳細なデータを求められたほか、実際に見学したいとの要望も寄せられました。

更に、PR 用動画として、企業庁の中部臨空都市の紹介映像を使用させていただきましたが、企業紹介のほかにも中部国際空港の紹介や、本県の文化や食べ物の紹介もあり、数多くの来訪者の目にとまったところです。

〈投資セミナーの開催〉

愛知県の投資セミナーは会場中央のセミナースペースにおいて、主催者のスケジュールに従った、比較的に淡々とした雰囲気で開始されました。事前にパリ産業情報センターから、これまでお会いした企業だけでなく、EnR2013 出展企業全てに案内を送付していたのですが、大方の予想に反し、およそ 40 人程度の聴講者に来ていただきました。

プレゼン資料はインパクトの強いものにしようと思った結果、和風の絵巻物風としました。最初は、全国一の本県の山車祭を説明し、山車にある「からくり人形」が踊りや習字、矢を放ったすることから、本県が歴史的にものづくりの集積地であったことを紹介したところです。

愛知県の投資セミナーの様子

また、本県の概略とともに、アジア No.1 航空宇宙産業クラスター形成特区を始めとした航空宇宙産業振興の取組のほか、産業空洞化対策減税基金による大型補助制度を始めとした産業集積への取組、愛知万博・COP10 開催を契機とした「環境首都あいち」実現のための取組について説明を行いました。そして、環境に関する実証実験等の取組や、「知の拠点」を始めとする先駆的な研究開発の取組についてもアピールすることができました。

ホストとしてモリゾーとキッコロ（ぬいぐるみ）に同席してもらったにもかかわらず、大きなステージでのスピーチはとても緊張し、少し早口になってしまいました。それでも 30 分程度のスピーチの反応は上々であり、終了後には企業の方からねぎらいのメッセージや質問が数多く寄せられたことからも、セミナー開催の効果はあったと思います。

〈アフリカへの投資セミナー〉

この展示会では、数多くの企業・団体機関が各々独自にセミナーを開催していましたが、中でも目を引いたのはアフリカ諸国の新エネルギープラント投資に関するセミナーです。

アフリカ投資セミナーの様子

近年では温暖な気候を活かし、アフリカ地域には相当数の新エネルギープラントが建設されており、パリ産業情報センターが訪問した欧州企業の殆どは、アフリカでの事業展開を図っているとの回答があったところです。繊維や電化製品等の軽工業分野において、これまでかなりの数の欧州企業がアフリカへの投資を実施してきたところですが、電力供給が必ずしも安定しているとは言えず、市民の電化製品の購買力も上昇したことも併せ、慢性的な電力不足になっています。

アフリカ諸国の中でも、産油国でない国のアピールが特に積極的なのですが、セミナーに参加した欧州企業の話では、アフリカ諸国の政情や電力の買取価格を踏まえ、慎重に対応していきたいとの意見がありました。

今回の企業誘致関連における初めての出展において、出展分野が新エネルギー関連ということで、県内の関係機関と連携しながら、ポスター作成やプレゼン資料作成の準備に相

当の労力を注ぎました。関係者の皆様方にはこの場を借りて深く御礼申し上げます。

4 日間の出展を通じ、100 人以上の関係者との面談をすることができ、数多くの企業から質問・お問い合わせをいただいたところです。その中には本県への投資について前向きに検討していただける企業の発掘もあったことからも、出展効果はあったのではと思っています。結果的に企業誘致に結び付けられるよう、今後も企業に対するフォローアップを実施していきたいと思っています。

なお、面談した企業からは、日本におけるバイオマス関係発電の状況についての質問を受けました。欧州では風力・太陽光だけでなく、バイオマスによる発電が盛んであり、ドイツでは全体のおよそ 5 パーセント以上を占めていますが、今後は日欧のバイオマス発電関連事業についても調査を進めていきたいと思っています。

パリ産業情報センターとしては、「環境首都あいち」の実現を目指した先駆的な環境分野における取組を情報発信していくとともに、これからもこの新エネルギー産業の動向を、迅速かつタイムリーに調査してまいります。